

# はじめての 海外文学

Vol.1

ビビり  
大  
篇



ごんすけ

Take Free

突然何かを好きになるキッカケって何でしょう？

18歳までに読んだ本が児童書3冊！という書店員としては珍獣的な過去の持ち主の私が海外文学を好きになったキッカケは、私のことをよく知っている立教大学の教授に『画伯みたいにブツ飛んだヤツは絶対この本が好きだ!!』と、読む前から盛大に拒否反応が炸裂した岩波文庫の“巨匠とマルガリータ 上下ブルガーコフ著／水野忠夫訳”を若干余計な一言とともにオススメされたのがはじまりでした。

本当に面白かったんです。  
あれから1年。もう拒否反応は出ません(笑)  
なんてアッサリしたキッカケなんでしょう。

そう、きっと好きになるキッカケなんて簡単なこと。  
本当はこういう自分の好みをよく知っていて『おまえにはコレだー！』とオススメしてくれる人がみなさまの周りにも居ればいいのです。でもなかなかいないですよ。  
だったらこのフェアがお客様にとってそんな存在になれないかしら？と思いました。

選書は海外文学のプロフェッショナル“翻訳家”  
面白さはお墨付きです。

店頭でぜひ本に触れてください。  
ビビッと来たらそれが“あなたの本”です。



52人の翻訳家が言っておりますよ、  
『君は好きな本はコレだー！』ってね。

セントポール・ルミナサ“書籍店 ごんすけのかいぬし。

## —あなたを選んでくれるもの—

ミランダ・シュライ著／岸本佐知子訳

新潮クレスト・ブックス 2300円+税

あなたと同じように、いま、この時代を生きている、等身大のアメリカがここにある！

不用品を売る広告の主たちを訪ね、作者が出会った想像を絶するさまざまな人生。その迫力に打ちのめされ、からっぽになろう。最後に訪れる希望を、全身で受けとるために。

青木悦子 英米文学翻訳家

## —歩道橋の魔術師—

呉明益(ごめいえき)著／天野健太郎訳

白水社エクス・リプリス 2100円+税

誰もが知っている台湾の、初めて読む小説は切なさ(初恋や家族)と不思議(謎の魔術師)にみちている。ホウ・シャオシェン(台湾の映画監督)も描いた、80年代台北の少年少女の物語。

天野健太郎 台湾文学翻訳『聞文堂』代表

## —幽霊たち—

ポール・オースター著／柴田元幸訳 新潮文庫 430円+税

人物の名前が覚えられないから外国文学は苦手と言う人がいますが、この小説の登場人物はみんなブルーとかブラックとか色の名前なので、その点は安心(?)です。ストーリーも文章も魅力的です。ぜひ楽しんでください。

小野正嗣 小説家／フランス文学者／立教大学教授

## —【新訳】チェーホフ短篇集—

チェーホフ著／沼野充義訳

集英社 1600円+税

「人生に役立つ」と帯には書かれていませんが、こんなにも切なく愛おしい人間のちっぽけな存在について、笑いあり涙ありの人生について、そして(海外)文学に触れる喜びについて教えてくれる本。

読みやすく親しみやすい文体で新たに訳出されたチェーホフの珠玉の短篇に、エッセイの名手でもある訳者の沼野氏の、これまた温かくユーモアのある解説と翻訳の裏話が添えられているので、チェーホフの世界への入り口としてだけでなく、海外文学を味わうための入門書としてもとても親切で、最適の一冊だと思います。

金子奈美 バスク文学研究者・翻訳家

## —古森の秘密—

ディーノ・ブツァーティ著／長野徹訳

東宣出版 1900円+税

神秘的な森を舞台にした人と精霊の物語、といえはありきたりに聞こえるけど、最良の英米ファンタジーを詩的に語り直すと、こんな感じになるのかもしれない。

産地はイタリア、それも1935年の作品。

英米のファンタジー、ちょっと負けてるかも。

金原瑞人 法政大学教授・英米文学翻訳家

## ークリスマス・プレゼントー

ジェフリー・ディーヴァー／池田真紀子 他訳

文春文庫 920円+税

短編の名手ディーヴァーの職人技を堪能できる傑作短編集。先がどうなるのかわからないままストーリーに身をまかせる心地よさ、あっと驚く着地が確実に用意されているという安心感。読んでないなんてもったいない！これから読めるなんてうらやましい！

上条ひろみ 英米文学翻訳家

## ー屋根裏の仏さまー

ジュリー・オオツカ著／岩本正恵&小竹由美子訳

新潮クレスト・ブックス 1700円+税

およそ百年前、写真だけを頼りに日本の港からアメリカに渡った「戦争花嫁」たち。一人称複数による素朴な語り口のなかから彼女たちの人生が浮かび上がる。同じ文体の連なりが美しいリフレインとなって耳に残る。

亀井よし子 英米文学翻訳家

## ーハルムスの世界ー

ダニイル・ハルムス著

／増本浩子&ヴァレリー・グレチュコ訳

ヴィレッジブックス 1900円+税

とにかく、どこでもいいからぱっと開いて読んでみてください。たとえば、そう、十六ページあたり。驚いたでしょう？わけがわからないでしょう？でも無性に面白いでしょう？十分に目が点になったら、このすばらしい翻訳者たちの素晴らしい解説を読んで、この一見ナンセンスな作品たちが生み出された舞台裏に、もう一度ううむと唸ってください。

岸本佐知子 英米文学翻訳家／日本翻訳大賞選考委員

## ー卵をめぐる祖父の戦争ー

デイヴィッド・ベニオフ著／田口俊樹訳

ハヤカワ文庫 900円+税

青年ふたりが入手困難な卵の調達を命じられて戦場を旅するという、奇妙な設定。戦争の悲惨な現実を描きつつもユーモラスな会話で笑わせる、軽重のバランス。冒険と友情と淡い恋の配分。書きだすと結び。それらすべてが「絶妙」な小説です。

北田絵里子 英米文学翻訳家

## ー34丁目の奇跡ー

ヴァレンタイン・デイヴィス著／片岡しのぶ訳

あすなろ書房 1200円+税

舞台はニューヨーク。マンハッタン34丁目のメイシー百貨店にサンタクロース役として雇われた老人は、自らを本物のサンタだと名乗っている。信じる心を持ち続ければ、奇跡は起きるかも……。そう思わせてくれる一冊。

北村みちよ 英米文学翻訳家



## ー菜食主義者ー

ハン ガン著／きむふな訳

クオン 2200円+税

ごく平凡なはずの妻が、ある日突然肉食を、そしてついには食べることで自体を拒み植物になりたがる。われわれの中に潜む動物的な暴力性に関する省察。「美しさ」と恐怖が奇妙な調和をなしている」と評され、2016年アジア初のブッカー国際賞を受賞した。

きむふな 韓国・日本文学翻訳家／日本文学研究者

## ー亡命ロシア料理ー

ピョートル・ワイリ&アレクサンドル・ゲニス著

／沼野充義&北川和美&守屋愛訳 未知谷 2000円+税

二人の亡命ロシア人による軽妙洒落な料理談義と文明批評。楽しくて美味しく、しかもレシピつきなので料理本としても使えます。本棚に置いておいて損のない本。海外文学はまず胃袋から！

小竹由美子 英米文学翻訳家

## ー紅玉は終わりにして始まり

### 時間旅行者の系譜ー

ケルスティン・ギア著／遠山明子訳

創元推理文庫 980円+税

フツの女子高生が時間旅行者の遺伝子を持っている？しかも大昔から続く陰謀に巻き込まれ、イケメン男子と一緒にミッションを与えられたから、さあ大変。ドイツ発ラブコメファンタジー発動。読んだらやめられない。

酒寄進一 ドイツ文学者／和光大学教授

## ー不思議を売る男ー

ジェラルディン・マコックラン著／金原瑞人訳

偕成社 1500円+税

ひよんなことから古道具屋で働くことになった謎の男MOC。彼がお店の品物にまつわる物語を語りきかせると、お客はみな、目を輝かせて買っていく。寄せ木細工の文具箱、中国の皿、鉛の兵隊……。11の物語を読んだあと、最終章にさらなる驚きが！現代版『アラビアンナイト』をぜひ。

三辺律子 英米文学翻訳家

## ーハートビートー

シャロン・クリーチ著／もきかずこ訳 偕成社 1400円+税

仕事／勉強／趣味を続けることに迷ったり疑問を感じたときに心に響く物語。字数はとっても少ないけれど、伝わってくるものは大きい。“走る”少女が語り手なので『風が強く吹いている』に通じるところも。

島村浩子 英米文学翻訳家

### —海に住む少女—

シュペルヴィエル著／永田千奈訳

光文社古典新訳文庫 476円+税

心が不穏に波立ったとき、わけのわからない不安に胸がざわめくとき、この本を読む。

どの作品もごく短くて、寓話のようでもあり、読み終わったからといって、それまで抱えていた問題を解決するヒントが得られるわけでもない。それでも、淡い水彩画のような小さな小さな物語を読むうちに、ほんのりと甘く、うっすらと哀しく、どこか懐かし気持ち胸を浸し、荒れ模様だった心がすうっと落ち着くを感じる。著者は「フランスの宮沢賢治」と言われているそうだけれど、小川洋子さんの作品がお好きという方には、たぶん、気に入っていただけるのではないかと思います。

芹澤恵 英米文学翻訳家

### —火打箱—

サリー・ガードナー著／山田順子訳

東京創元社 2400円+税

アンデルセンの童話をもとにガードナーが長編化した、とことんダークなファンタジー小説。死神から逃れた兵士は男装の少女、サファイアーと出会い、恋に落ちる。捨てても捨てても戻ってくる火打ち箱がいざなう兵士の運命とは……？迫力の挿絵も圧巻で、気付けば夢中になっている一冊。

田内志文 英米文学翻訳家／文筆家

### —幸せはどこにある—

フランソワ・ルロール著／高橋啓訳

\*加鹿舎 1000円(税込)

幸福とは何か？ それはフランス文学の主題そのものです。そしてフランソワ・ルロールほどこんなに平易なフランス語で書いた人はいません。この名著が熊本の加鹿舎さんから再版されました。ぜひお楽しみください。

高橋啓 フランス語・英語翻訳家

### —失踪当時の服装は—

ヒラリー・ウォー著／法村里絵訳

創元推理文庫 1000円+税

一九五〇年、女子大生が寮から忽然と消えた。自らの意志で失踪したのか、事件に巻きこまれたのか。現代のような科学技術がない時代、地道な捜査が続きます。一步一步真相に近づく過程や、捜査にあたる警察署長たちの人となりが魅力の一作です。新訳が出ていますので、この機会にぜひ！

高橋知子 英米文学翻訳家

### —時の娘—ロマンティック時間SF傑作選—

ジャック・フィニイ、ロバート・F・ヤング他／中村融訳

創元SF文庫 920円+税

〈時間〉と〈愛〉にまつわる9つの短編。岩に刻まれたハートの伝言。愛は待ってくれないと悟り涙する女優。過去に戻ってもう一度やり直せたらとの思い……切なかったり、ほろ苦かったりと味わいさまざま、粒ぞろいの短編集です。

高山真由美 英米文学翻訳家

### —靴を売るシンデレラー—

ジョーン・パウアー著／灰島かり訳 小学館 1500円+税

容姿はイマー(イマ)商才はピカー(イカ)の女子高生ジェナ。パイト先の靴店で才能を買われ、なんと女社長と旅することに……！

実は深刻な問題を抱えつつも、楽しんで靴をがががん売るジェナが◎！

元気をもらえる本です。

田中亜希子 英米児童文学翻訳家

### —悪童日記—

アゴタ・クリストフ著／堀茂樹訳 早川epi文庫 660円+税

戦時下の疎開先で逞しくしたたかに生きる双子の兄弟が、その過酷な日常を「日記」という体裁で綴る物語。

短文を重ねた簡潔な文体は読みやすく、その冷徹な視線は人間の本性や世の中の不条理を鋭く炙り出す。

謎と余韻を残すラストは衝撃的で、続く第二部、第三部を読まずにいらなくなります！

戸田早紀 英米文学翻訳家

### —サラスの旅—

シヴォーン・ダウド著／尾高薫訳

ゴブリン書房 1700円+税

ホリーはロンドンの里親の家から、アイルランドへママを探す旅に出る。金髪のウィッグ姿で、クールなサラスとして。温かい人たちとの出会いの果てに見つけたのは、本当の自分？ それとも……。辛くて幸せて辛い物語。

中村久里子 翻訳家

### —ペンギンの憂鬱—

アンドレイ・クルコフ著／沼野恭子訳

新潮クレスト・ブックス 2000円+税

部屋をべたべた歩きまわり、主人公を心配そうに見つめるペンギン。

きな臭い状況の中で主人公はまだ亡くなってもない人たちの追悼記事を書く。

ウクライナのロシア語作家による、不思議な雰囲気漂わせたミステリアスな物語だ。

沼野恭子 ロシア文学者／東京外国語大学大学院教授

### —スイート・ホーム殺人事件—

クレイグ・ライス著／羽田詩津子訳

ハヤカワ・ミステリ文庫 900円+税

ミステリだと殺人が起きるから怖い、という方に、ぜひお勧めしたいのが、この作品。たしかに殺人も死体も登場しますが、おませな子どもたち三人が探偵で、ユーモアたっぷり。読後にほのほとした気分を味わえる希有なミステリです。おまけに恋愛も親子関係も作品に盛り込んであり、人生の機微に胸をつかれる部分も。眠りにつく前の一冊にお勧めです。

羽田詩津子 英米文学翻訳家

### —エベレスト・ファイル シェルバたちの山—

マット・ディキンソン著／原田勝訳 小学館1500円+税

エベレスト登頂経験のある作者が描く雪と氷のヒマラヤは臨場感にあふれ、謎解きの要素もあって、読み出したら止まりません！

原田勝 英米文学・YA翻訳家

### —容疑者—

ロバート・クレイス著／高橋恭美子訳

創元推理文庫 1260円+税

犬が大好きな人はもちろん、猫派にもハムスター派にも爬虫類派にもおすすめ。心にも体にも大きな傷を負ったジャーマンシェパードのマギーがかわいくて、けなげで、何度も何度もうろっときます。こんなに犬の気持ちがわかるなんて、作者のロバート・クレイスは犬になったことがあるのかもしれませんが。読み終えたとき、行く先で出会う犬たちすべてがいとおしく見えてくるはず。

東野さやか 英米文学翻訳家

### —カラーパープル—

アリス・ウォーカー著／柳沢由美子訳

集英社文庫 710円+税

人種差別と女性蔑視がはびこる20世紀前半の米国を舞台に、薄幸な黒人少女セリーが愛と友情を得て自立していく姿が描かれます。……というだけでは足りない、いろいろな人生が詰まった奥の深い小説です。

布施由紀子 英米文学翻訳家

### —世界の果てのビートルズ—

ミカエル・ニエミ著／岩本正恵訳

新潮クレスト・ブックス 1900円+税

60年代、スウェーデン北端の村。そのど田舎っぷりに感動を覚えるほどの地の果てで、少年たちは「ロスクンロール・ミュージック」に脳天を直撃される。バカで熱くて胸がぎゅっとなる青春小説。カバーに傑作って書いてあるの、ほんとですよ。

古市真由美 フィンランド文学翻訳家

### —パイは小さな秘密を運ぶ—

アラン・ブラッドリー著／古賀弥生訳

創元推理文庫 1100円+税

探偵役は化学実験が大好きな女の子、11歳のフレヴィア！  
お母さんはいないけれど、お姉ちゃんたちに意地悪されるけれど、めげないで今日も元気に化学の力で事件解決。イギリスの田園地方が舞台で、良質のドラマを見ているようにどんどん読める1冊です。

三角和代 英米文学翻訳家

### —カモメに飛ぶことを教えた猫—

ルイス・セプルベダ著／河野万里子訳

白水uブックス 800円+税

なにしろ港の猫たちがすてき。「大佐」「秘書」「博士」「向かい風」にソルバ。名前が並んだだけでわくわく。そしてカモメの「フォルトゥナータ（幸運）」と人間の「詩人」。違うものたちが、違うからこそ、愛し助けあう世界。新たな一歩を踏み出す勇気をくれる1冊です。

宮崎真紀 英米文学・スペイン文学翻訳家

### —ティファニーで朝食を—

トルーマン・カポーティ著／村上春樹訳

新潮文庫 590円+税

村上春樹ファンはもちろん、そうでない方にもお勧めです。訳者の作品への思い入れが伝わってきて、カポーティの世界にぐんぐん引き込まれます。映画でもおなじみですが、ごらんになった方はひとまずオーディオ・ブック・ハッピーターンを忘れて、あなた自身のホリーを見つけてください。

矢沢聖子 英米文学翻訳家

### —グループ消息不明—

エドゥアルド・メンドサ著／柳原孝敦訳

東宣出版 1900円+税

地球にやって来た宇宙人が行方知れずになった仲間を探す話。慣れない地球でドジを踏んでばかり。地球についての勘違いも笑える。短く区切られているので読みやすく、背景を知らば唸る。何度も読み返して楽しめる。

柳原孝敦 スペイン文学者・東京大学大学院准教授

### —通い猫アルフィーの奇跡—

レイチェル・ウェルズ著／中西和美訳

ハーペルコリンズ・ジャパン 815円+税

猫好きさん、ぜひ読んでください！ 飼い主が亡くなり孤児になってしまったアルフィーの運命に涙して、「幸せになって！」と応援したくなる本。読み終わったあとで、読者を幸せな気分にしてくれる本です。

山本やよい 英米文学翻訳家

### —アンダー、サンダー、テンダー—

ジョン セラン著／吉川凧訳

クオン 2500円+税

20世紀末、北朝鮮に近い国境の町・坡州 [パジュ]。私の恋人はある日突然、世を去った。高校時代の友人たちは再び集い、甘く切ない青春の日々を振り返る……。これは、傷ついた人のための物語です。

吉川凧 韓国文学翻訳家

## はじめの海外文学 vol.2

#### 〈まとめ役〉

★でんすけのかいぬし

(セントポールプラザ書籍店・本屋でんすけにゃわら版)

★酒井七海

(初代“はじめての海外文学フェア”発起人)

★山本菜緒子

(紀伊國屋書店グランフロント大阪店)

#### 〈フェア帯制作〉

★川田智美・山本寛基・素晴らしきデザイナーさま

(精文館書店)

★池内なほ・竹田純

#### 〈ご協力〉

翻訳家のみなさま

伽鹿舎・国書刊行会・作品社・新潮社・白水社・立東舎

関西翻訳ミステリー読書会・立川読書会

twitter宣伝部隊のお客さま

フェア参加店舗さま

#### 〈イベントのご協力〉

越前敏弥さま “はじめての海外文学スペシャル”

みなさま! ありがとうございます!  
Twitter: @kaigaibungaku  
↑ コッチもチェックしてね!

